2024年度　学校関係者評価報告書

1.　目的

自己点検・自己評価の結果を学校関係者評価委員会に報告し、指導・助言を得て、教育活動及び学校運営に活用する

2.　参加者（敬称略）

・委員会役員

委員長	前島　良弘	本校非常勤講師/看護系学校受験専門塾　啓学館代表
委員	木原　俊行	四天王寺大学教育学部　教授
委員	田上　晶子	大阪府看護学校協議会　副会長/近畿大学附属看護専門学校　教務部長
委員	山口　美裕紀	松下記念病院　看護部長
委員	渡邊　千代子	本校卒業生（24期生）/松下記念病院　師長
委員	原田　英和	守口市立さつき学園　校長　※代理出席：石本　裕樹副校長

・学校長：村田　博昭

・副学校長：大谷　弘恵

・教員：木村　緑（教務主任）、坂本　鈴子、北島　恭子、美甘　瞳、小林　美穂
新名　未希、芦原　由里、佐藤　哉子、加藤　若菜

・事務員：鍛治舎　穣、石川　澄枝

3.　開催日時と内容

2025年3月21日(水)15：00～17：00

① 開会挨拶（村田学校長）

看護専門学校の環境は人口減少、大学志向とともに厳しくなっている。また、今後ますます厳しくなる国家試験を意識した学生育成の必要性がある。そのため、母体病院との一体的な運営を通じて、専門学校の強みを活かした教育が重要であると考える。この会では本校の教育活動や運営について客観的に評価をいただき、改善策等のご指導やご意見をいただきたい。

② 参加者自己紹介

③ 学生状況説明（各クラス担任）

48・49・50期生の概要、入試状況、成績状況、特徴について

④ 自己点検・自己評価概要説明（大谷副学校長）

4.　議事内容

［受験生確保の現状］

参加委員より、少子化の影響で受験生が減少している現状について述べられ、特に高校訪問の重要性が議論された。当校も高校訪問を増やしているが、具体的な訪問校数や推移などのデータがなかったため、実数があるとよりよいと指摘があった。ポータルサイトを含め、デジタルで裾野を広げるとともに、最後の決め手となるアナログでの対応（高校の先輩からのメッセージを手作りして渡すなど）にも力を入れていること、母体病院と連携し、母体病院で活躍している看護

師からのメッセージの作成に取りかかっているなど活動内容の共有を行った。

［教育活動の評価］

① 昨年度の学校関係者評価でのご指摘を基に、今年度より授業アンケートを改善し、数値評価だけでなく記述評価を設けた。これにより、講師から授業評価に活かせているという反応をいただけていることを共有した。

② 母体病院との教育連携においては、学内の教員が行う授業と病院スタッフが看護実践を中心に講義する授業の連携について議論があった。基本的な学習と実践に解離がないか、学習目標の達成についても共有できるとよいとの意見があった。

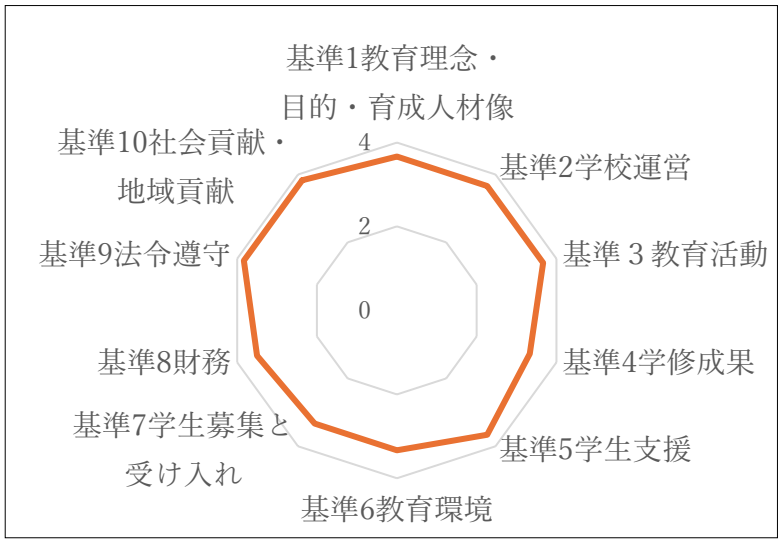
③ 2022 年度法律改正から 3 年が経過し、カリキュラムの評価を順次行っている。この法律改正では知識の獲得から能力の獲得への変換と言われており、当校でも、実習においては看護を実践する能力の評価が行えるようになってきている。しかし一方で、講義や演習においてはまだ手探りの状態にある。授業や演習でどこまでのパフォーマンス課題を設定し、何をもって能力を測っていくか、今後も検討を続けていく必要があることを共有した。

［地域との連携］

３年生の授業で、地域の事業所を訪れ、健康的な生活についてなどの提案を実践していることを紹介した。学生からは事業所を探す段階から困難が多く、不評なところもあるが、自分自身で計画を立て、礼節や短時間で必要なことを伝えることなど、地域の方々から学ばせてもらう授業となっている。この授業は、当校の教育手法であるプロジェクト学習の集大成となる科目である。様々な調整が必要であるが、健康、生活、看護などを統合させるとともに、学生が自分を見つめなおす機会にもなり、今後も継続していきたいことを共有した。

5. 総括

受験生確保対策強化の継続が重要な課題となる。デジタルとアナログの両方を駆使し、受験対象校のデータを活用しながら広報活動の実施・評価を継続していく必要がある。

教育内容の見直しとしては、学習到達目標の現状の把握と分析が課題となる。学内と学外の講師の授業の連携や実習など臨地で必要な判断能力の獲得、どのような評価を行うかなど議論することが必要である。

受験生確保対策や教育内容の見直しに関して、母体病院との連携が不可欠であり、学生や学生・卒業生にかかわる職員のニーズの共有や連携していく取り組みの評価の実施を目指す。